

きゅうしゅう

編集・発行
九州防衛局 総務部

福岡市博多区博多駅東
2丁目10-7
福岡第2合同庁舎内
092-483-8811

No.12

◆ 完成したジュリエット・ベイسن新岸壁に接岸中の
左 強襲揚陸艦「エセックス」
右 海自・護衛艦「こんごう」



佐世保特集

◆ 日米親善ふれあいバスケットボールに参加した
子供たちとWJBL講師

- ◆1 ジュリエット・ベイソン新岸壁の完成に寄せて
- ◆2 在日米海軍・海上自衛隊現場司令への“独占インタビュー”
- ◆3 日米親善ふれあいバスケットボール
- ◆4 インフォメーション



九州防衛局 Kyushu Defense Bureau



<http://www.mod.go.jp/rdb/kyushu/>

1 ジュリエット・ベイスン新岸壁の完成に寄せて



【写真】JB新岸壁セレモニーでテープカットを行う米海軍佐世保基地司令官と四者協メンバー

佐世保問題現地連絡協議会(四者協)で協議を始めて10年余り、佐世保港内軍民棲み分けの大きな一歩となる佐世保海軍施設内ジュリエット・ベイスンにおける新岸壁の整備が完成しました。

この機に臨み、四者協とともに協議を重ねて頂いた佐世保市長、長崎県副知事、海上自衛隊佐世保地方総監並びに米海軍佐世保基地司令官からコメントを頂きました。

◆ 朝長則男佐世保市長

新返還6項目を基調とする佐世保港の棲み分けについて、抜本的解決策を担うジュリエット・ベイスンの新岸壁が完成しましたことを関係者の一人として心からお慶び申し上げます。

新岸壁の完成により、立神港区の船舶の輻輳緩和はもとより、米軍の物資開梱や積み降ろしなど、効率的な運用が可能になるものと思います。

さらに、新岸壁の整備は、平成16年に日米合同委員会で基本合意された3項目の一つである「立神岸壁3・4・5岸の一部の返還」の前提となるものであり、本市の命題である港の棲み分けに一層の拍車がかかるものと期待しています。

これまでご支援とご協力をいただきました関係の皆様、特に、本市とともに佐世保問題現地連絡協議会の構成メンバーとして日頃から佐世保地区の基地問題に取り組んでいただいております九州防衛局、海上自衛隊佐世保地方総監部及び長崎県の関係の皆様方のたゆまないご尽力に対しまして、心から感謝の意を表します。



◆ 藤井健長崎県副知事



長崎県では、基地政策を県政の重要課題と位置づけ、九州防衛局や海上自衛隊佐世保地方総監部及び佐世保市とともに佐世保港の棲み分けに取り組んできたところがございます。ご承知のとおり、平成22年3月にジュリエット・ベイスンの新岸壁が完成したことから、立神岸壁の一部の早期返還に向け、九州防衛局や関係機関の皆様にご尽力をいただいているところがございます。佐世保港の棲み分けを着実に進展させることは、軍・民が共存しながら、佐世保港の活性化をはじめ、地域産業の振興、さらには、地域住民の安全・安心の確保にも寄与するものでございます。

佐世保港の棲み分けについては、これまで、関係者の皆様のご尽力により着実に進展してきておりますが、今後とも棲み分けをはじめ、基地対策の推進に大きな役割を果たせるよう努力して参りたいと存じます。

◆ マーティン米海軍佐世保基地司令官

日本政府から先頃提供されたジュリエット・ベイسنの新岸壁は、2004年から約6年の歳月と約2億ドルの経費を投じて完成したもので、埋立地約5.8ha、岸壁505mとその支援インフラ設備からなり、主に強襲揚陸艦エセックス(LHD-2)の係留施設として使用する予定で、この岸壁の使用開始を今から心待ちにしています。

私達が特に感心したのは、工事に携わった多くの日本の業者のプロ意識に徹した仕事の質の高さです。また、日米両政府間では、それぞれのレベルで終始協力的なコミュニケーションが取られ、このことは両国関係の絆の強さを示すものです。

米海軍佐世保基地と佐世保港のこのように様変わりした姿は、日米安保条約改定50周年の今年に相応しいものでした。

ジュリエット・ベイسنの建設プロジェクトが完成したことで、既に高い我が艦隊支援基地の評価は更に増すと同時に、この新しい岸壁は、真の意味で、私達を結びつける「絆」を輝かしく象徴しています。



◆ 加藤耕司海上自衛隊佐世保地方総監



我が国周辺の安全保障環境は、中国海軍の勢力拡大、北朝鮮の核開発、極東ロシア軍の復興等近年とみに不安定な様相を呈しております。特に、北は対馬から南は与那国島に至る広大な海域に尖閣諸島を含む約2,500の島しょを有する佐世保警備区は、かつてない緊張の高まりを見せており、佐世保基地の重要性は増すばかりです。

一方で、佐世保は狭隘な区域に海上自衛隊、在日米海軍、民間企業等の施設が混在し、係留施設の不足からそれぞれの機能が制限される状況にあります。今回のジュリエット・ベイソンに新たに岸壁が完成したことは、こうした現状を改善する大きな進展であり、在日米海軍の係留施設の向上は、海上自衛隊の円滑な部隊運用にも資するものと期待しております。

ジュリエット・ベイソン岸壁竣工にあたり、平成16年着工以来、長期にわたって岸壁の建設並びに諸調整に携わってこられた九州防衛局に対し、心からねぎらいとお祝いを申し上げます。

◆ 廣瀬行成九州防衛局長

このたび、佐世保海軍施設ジュリエット・ベイソンの岸壁等の工事が完成し、米海軍により使用されることとなりました。

この工事は、九州防衛局(旧福岡防衛施設局)により平成16年から約6年間かけて行われてきたものです。本工事の実施に際して佐世保市や長崎県をはじめ関係する皆様方から多大なるご協力とご支援を賜り、この紙面をお借りして感謝申し上げます。

岸壁等の新設は、岸壁の混雑を解消し停泊する艦船の安全確保、作業の効率化を目的とするものです。佐世保市が「新返還6項目」として要望されている岸壁の一部返還等にも合致するものです。

九州防衛局といたしましては、引き続き、佐世保地区における基地を巡る諸問題の解決に向けて、関係する皆様方と連携し、精力的に取り組んで参りたいと考えております。今後とも、皆様方のさらなるご理解とご協力をお願い申し上げます。



2 在日米海軍・海上自衛隊

米海軍第7艦隊CTF76司令 ランドルト少将
(Commander Amphibious Forces 7th Fleet)



米海軍第7艦隊CTF76司令 ランドルト少将 と 海上自衛隊
部隊間における日米交流、更に日米安全保障条約改定 50 周

Q: 佐世保市の印象は

初めて佐世保に来たのは1982年で少尉の時でした。美しい町で私達を暖かく受け入れてくれる印象を持ちましたし、それは今も続いています。その後、1998～2000年はフォート・マクヘンリーの艦長として、2003～2004年は第11両用戦隊司令として、2度佐世保で勤務し、多くの友人ができました。妻も私も佐世保を第2の故郷と思っています。

Q: 海上自衛隊第2護衛隊群との協力・交流関係は

米海軍と海上自衛隊は価値観や目的を共有しています。それは、この地域の平和維持であり、その目的のために共同で訓練をしたり、通商のため自由に通行できる航路を保

障するために世界共有の海域をパトロールすること等です。

これらを行うために、我々は、双方独自の、しかし互いに補完し合う技術を海上で駆使します。つい先頃実施した共同訓練“Keen Sword”でそれは実証されました。米海軍と海上自衛隊は共に船を走らせ、連絡格技を相互に派遣し、そして、想定される様々な状況下で互いの技術を実践しました。

Q: 日米安保改定50周年に対する所感

日米同盟は、恐らく世界で最も重要な二国間同盟だと思います。両国が共有する自由という価値観と両国民の知恵が相俟って、言葉の上でも行動の上でも強力な同盟を生み出しています。アジア地域は、特にこの20～30年間の経済成長に見られるように、この同盟から多大な利益を得ていることは特筆に値します。世界でこのように大きく成長した地域は他にありません。日米同盟がアジア地域のかかる成長を可能にしたのです。

第7艦隊CTF76の概要

沿革：1943年編成。西太平洋からインド洋に及ぶ第7艦隊の責任区域において揚陸作戦などに従事。

組織編成：米海軍太平洋艦隊隷下の第7艦隊に所属。第7機動展開打撃群、第11両用戦隊、第7掃海隊、第14掃海ヘリコプター飛行隊、第7医療隊、第11戦術飛行隊、第1揚陸群西太平洋分遣隊、第25海上戦闘ヘリコプター飛行隊、第5爆発物処理隊などで編成され、沖縄県勝連半島のホワイト・ビーチ海軍施設に司令部を置く。

所属艦船：エセックス (LHD-2)、デンバー (LPD-9)、ハーバース・フェリー (LSD-49)、トウーガ (LSD-46)、アベンジャー (MCM-1)、ディフェンダー (MCM-2)、ガーディアン (MCM-5)、パトリオット (MCM-7) 以上佐世保基地を母港とする艦船など。

現場司令への “独占インタビュー”

第2護衛隊群司令 大塚海将補 に佐世保市の印象や双方の年を迎えての所感についてインタビューを行った。

海上自衛隊第2護衛隊群司令 大塚海将補

Q: 佐世保市の印象は

佐世保市は、明治22年に帝国海軍が鎮守府を開設して以来、海軍と共に発展してきた歴史があります。また、東シナ海に面した西の最前線の町として、海上自衛隊を温かく迎えてくれる町であり、海上自衛官に最も人気のある勤務地であるといえます。米軍基地のある町ですが、所在する米軍人とその家族が、「よき隣人」たることに努めており、地域の中に自然に溶け込んでいる点も、佐世保の特徴だと思います。



Q: 第7艦隊 CTF76 との協力・交流関係は

当群はいわゆる駆逐艦で構成される一方で、第7艦隊 CTF76 は主として揚陸艦から成る部隊であり、その任務は異なりますが、「海軍戦闘部隊」としてのプロフェッショナリズムには共通するものがあります。出港期間が重なり、両艦艇が佐世保で時間を共有する機会は必ずしも多くありませんが、今年の夏には、「交流週間」を定め、相互に艦艇を訪問しての専門職域毎の知見交換、スポーツ競技、家族も含めたバーベキューなどの懇親行事などを実施しました。実戦を経験している米海軍から学ぶべきことは沢山あります。

Q: 日米安保改定 50 周年に対する所感

多くの海上自衛隊と米海軍の幹部は、「ネイビー・ツー・ネイビー」の緊密な関係が、日米同盟の基盤を下支えしてきたとの自負を持っています。現場において、過去50年にわたり、共同訓練や各種活動といった地道な努力を積み重ね、その結果、双方がお互いに尊敬し合う関係を構築しているからです。東シナ海情勢が不安定さを増している今日、日米同盟が抑止力として確実に機能するよう現場での連携を更に強めていきたいと思っております。

第2護衛隊群の概要

沿革：第2護衛隊群は、昭和29年防衛庁海上自衛隊発足当時から編成され、その後幾度か隷下の所属護衛隊及び艦の編成替えを経て今日に至る。

組織編成：第2護衛隊群は、「自衛艦隊」隷下の「護衛艦隊」を構成する4つの護衛隊群の一つで、長崎県佐世保市に司令部を置き、8隻の護衛艦（人員約1,700名）から編成された機動水上任務部隊として、我が国周辺海域の防衛からソマリア沖の海賊対処活動に至るまで幅広い任務に従事している。

所属護衛艦：第2護衛隊一くらま（DDH-144）、あしがら（DD-178）、ゆうぎり（DD-153）、あまぎり（DD-154）
第6護衛隊一ちょうかい（DDG-176）、はるさめ（DD-102）、たかなみ（DD-110）、おおなみ（DD-111）

注）第2護衛隊群司令は、12月20日付で、練習艦隊司令官へ転出した大塚海将補から淵之上海将補に交替しました。

3



日米親善ふれあい

JAPAN-U.S. FRIENDSHIP

2010年12月19日、米海軍佐世保基地内体育館において、九州防衛局主催の日米親善ふれあいバスケットボールを開催しました。
この日は、基地の一般開放日でもあり、延べ約1,800名の方が観戦されるなど、たいへんな賑わいの中で行われました。



朝長佐世保市長挨拶



廣瀬九州防衛局長による開会挨拶



米海軍佐世保基地 マーティン司令官挨拶

この事業は、佐世保地区米軍施設の周辺住民の方々と米軍人やその家族との交流を目的として佐世保市等の協力を得て実施したものです。当日は、佐世保市内の日米小学生、その家族の方々など約300名が参加し、はじめに、主催者である廣瀬局長の開会挨拶、続いてマーティン佐世保基地司令官及び朝長佐世保市長の挨拶の後、午前は、バスケットボール女子日本リーグ機構(WJBL)の講師による日米小学生“バスケットボール教室”や“エキシビジョンマッチ”が行われました。

WJBL講師による日米小学生 “バスケットボール教室”

米海軍佐世保基地 King School WJBL講師 VS 女子高中生チーム “エキシビジョンマッチ”

バスケットボール教室では、WJBL 講師から、パスやシュート、ドリブルなどトップレベルの技を織り交ぜながらの説明や、チームワークの大切さなど実体験を交えた説明に、子供たちは熱心に聞き入っていました。その後行われたエキシビジョンマッチでは、NBA さんながらの選手紹介から始まり、試合では、WJBL 講師のスピード感あふれるドリブルやターン、精度の高いシュートなどが決まり WJBL 講師チームの勝利で終わりました。対戦した女子高中生チームは、「WJBL 講師の技術の高いプレーはすごかった」と一流プレイヤーと対戦出来たことを喜んでいました。また、会場も大変盛り上がり、得点が入るたびに大きな歓声が上がっていました。



熱心に説明を聞く子供たち

エキシビジョンマッチより

バスケットボール

BASKETBALL



子供たちによるミニバスケットボール試合

子供たちによる対抗試合

午後からは、日米混合の8チームが2ブロックに分かれ、ミニバスケットボール対抗戦及び各ブロックの1位チームによる決勝戦と2位チームによる3位決定戦が行われました。子供たちは、言葉はうまく通じないものの、試合を重ねる度にお互いを励まし、助け合う場面も多々見受けられるようになり、チームワークが段々と良くなりました。そのせいか、白熱した試合が続きたいへん盛り上がったものとなりました。

表彰式



表彰式後も子供たちは・・・

表彰式後も子供たちは、すぐに帰ることなく、お互いのバスケットボールなどにサインを交わすなど、共有した時間を確かめ合い小さな絆が芽生えていました。また同時に、WJBL講師によるサイン会も開催され、サインを求める子供たちで長蛇の列が出来ました。

今回参加した子供たちからは、「外国人と一緒にプレー出来て楽しかった。」
「言葉は通じなくてもいろいろなフリで伝えられて楽しかった。」や「また参加したい。」
などのコメントが寄せられました。

■ 日米親善交流事業概要

この事業は、平成20年度から全国の在日米軍施設が所在する自治体においてモデル事業として始めたものであり、参加者や関係自治体においても好評であることから、防衛省として昨年度から本格的に実施しているものです。

九州防衛局では、今回で2度目ですが、今後もスポーツなどを通じて日米の交流を図っていきたいと考えていますので、皆様のご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



Information

平成22年度 日米共同方面隊指揮所演習

日米共同方面隊指揮所演習は、通称（YS/ヤマサクラ）と呼ばれ、陸上自衛隊及び米陸上部隊が、それぞれの指揮系統に従い、日米それぞれの司令部内の指揮幕僚活動等について、コンピューター上で訓練し、その能力の維持・向上を図ることを目的としています。

九州防衛局は、今回初めて約30名の職員を参加させ、総合訓練では24時間体制で臨みます。武力攻撃事態時における地方防衛局の役割としては、米軍行動関連措置法等に基づく米軍に対する土地の提供と物品・役務の調達に関する業務及び自衛隊法第103条に基づき、自衛隊が行う土地の取得や物資の収用等に係る支援業務などが想定され、これらの業務については、米軍と西部方面隊との綿密な調整を実施し、各種手続き等の演練を行います。

■ 期間：平成23年1月20日（木）～2月3日（木）

■ 場所：健軍駐屯地等

■ 実施部隊：（1）自衛隊側

ア 統裁官 西部方面総監 陸将 木崎 俊造

イ 実施部隊 西部方面隊等 約4,500名

（2）米軍側

ア 統裁官 太平洋陸軍司令官 陸軍中将 ベンジャミン・R. ミクソン

イ 実施部隊 太平洋陸軍司令部、第1軍団、在日米陸軍司令部、第3海兵師団等
約1,500名

沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練分散実施
～日出生台演習場～

日出生台演習場（大分県）において、昨年度に引き続き通算8回目となる沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施に伴う訓練が、平成23年1月下旬から2月中旬までの日程で実施される計画です。

九州防衛局では、訓練の円滑な実施を図るため、九州防衛局内に廣瀬局長を本部長とする「九州防衛局米海兵隊実弾射撃訓練実施対策本部」を設置し、また、現地には、演習場内しょう舎地区に米海兵隊実弾射撃訓練現地対策本部を設置し、地元自治体等との連絡調整や演習場の巡回などを行い、地元住民の不安解消と訓練が安全かつ円滑に実施できるよう対応することとしています。

訓練部隊の展開・撤収等の日程

- 1月下旬 訓練部隊 日出生台演習場到着
- 2月7日～2月13日
射撃訓練期間7日間（このうち、
射撃日数は5日間）
- 2月中旬 訓練部隊 日出生台演習場出発

訓練規模、人員及び砲数等（支援部隊含む）

- 規模：中隊レベル
- 人員：約160名
- 車両：約40両
- 砲数：4門

九州防衛局では不測の事態に対応するため、夜間・休日を問わず連絡体制を確保しております。

（平日は17時15分から翌8時30分まで、休日は終日）
（上記以外の時間帯は各課室直通電話へご連絡下さい）

夜間及び休日の連絡先 TEL(092) 483-8832
FAX(092) 472-1959

編集後記

地元佐世保で永年の懸案である港の軍民棲み分けに向け大きな一歩となるジュリエット・ベイソンの新岸壁使用開始及び日米安保改定50周年を記念して、米海軍佐世保基地は、12月19日に式典を催すとともに、基地を一般に開放した。また、当局はこの日、基地内の体育館で日米親善交流事業を行うなど、今四半期においては佐世保における話題が際立ったので、今号の「きゅうしゅう」は佐世保特集とした。本日は師走も27日、御用納めを目前にして今号の編集も大詰めを迎えている。